

学位論文の要旨

新しい哲学教育カリキュラム論の研究
—自ら思考する市民を育てる学校教育のために—

広島大学大学院教育学研究科

福井駿

2015

I. 論文題目

新しい哲学教育カリキュラム論の研究
—自ら思考する市民を育てる学校教育のために—

II. 論文目次

序章

- 第1節 研究の主題—学校教育における市民育成の新しい可能性
- 第2節 研究の特質と意義—カリキュラム論の相互批判
- 第3節 研究の方法と構成—類型的事例カリキュラム分析

第I章 新しい哲学教育の理念的類型

- 第1節 米国における新しい哲学教育の展開
 - 第1項 新しい哲学教育の確立
 - 第2項 新しい哲学教育の発展
- 第2節 新しい哲学教育の類型化
 - 第1項 哲学教育の教育目標—本質的思考育成・社会的思考育成
 - 第2項 哲学教育の教育方法—合理化・自発化
- 第3節 新しい哲学教育の教育内容—可能な思考

第II章 合理化による本質的思考育成のための哲学教育

- 第1節 理念的立場とその事例
- 第2節 信念吟味学習としてのカリキュラム編成
 - 第1項 Philosophy for Teens の教育的意図
 - 第2項 Philosophy for Teens の全体構成
 - 第3項 Philosophy for Teens の授業構成
 - 第4項 Philosophy for Teens のカリキュラム論
- 第3節 新しい哲学教育の特質

第III章 合理化による社会的思考育成のための哲学教育

- 第1節 理念的立場とその事例
- 第2節 思考修正学習としてのカリキュラム編成
 - 第1項 IAPC 版 Philosophy for Children の教育的意図
 - 第2項 IAPC 版 Philosophy for Children のプログラム構成
 - 第3項 IAPC 版 Philosophy for Children 小学校低学年用コースの全体構成
 - 第4項 IAPC 版 Philosophy for Children 小学年低学年用コースの授業構成
 - 第5項 IAPC 版 Philosophy for Children 高校高学年用コースの全体構成
 - 第6項 IAPC 版 Philosophy for Children 高校高学年用コースの授業構成
 - 第7項 IAPC 版 Philosophy for Children のカリキュラム論
- 第3節 新しい哲学教育の特質

第IV章 自発化による本質的思考育成のための哲学教育

第1節 理念的立場とその事例

第2節 疑問生成学習としてのカリキュラム編成

第1項 Philosophy for Kids の教育的意図

第2項 Philosophy for Kids の全体構成

第3項 Philosophy for Kids の授業構成

第4項 Philosophy for Kids のカリキュラム論

第3節 新しい哲学教育の特質

第V章 自発化による社会的思考育成のための哲学教育

第1節 理念的立場とその事例

第2節 関係形成学習としてのカリキュラム編成

第1項 philosophy for children in Hawaii の教育的意図

第2項 philosophy for children in Hawaii のプロジェクト構成

第3項 philosophy for children in Hawaii 小学校低学年向け教育活動集の全体構成

第4項 philosophy for children in Hawaii 小学校低学年向け教育活動集の授業構成

第5項 philosophy for children in Hawaii 高校社会科の新設コースの全体構成

第6項 philosophy for children in Hawaii 高校社会科の新設コースの授業構成

第7項 philosophy for children in Hawaii のカリキュラム論

第3節 新しい哲学教育の特質

終章

第1節 研究の成果—新しい哲学教育カリキュラム論とその学校教育への貢献及び限界

第2節 研究の結論—学校教育の構造変革と新しい哲学教育

参考文献

Ⅲ．論文要旨

序章

本研究の目的は、新しい哲学教育を理念的に類型化し、各類型の事例と見なすことのできる教育計画の構成を解釈することを通して、新しい哲学教育としてあり得るカリキュラム論を解明し、新しい哲学教育が含み持つ市民育成の可能性を究明することにある。

学校教育の在りかたには、常に見直しが求められる。意識的計画的に教育を発生させるための装置である学校教育は、時間と空間に限界があり、あらゆるものを詰め込めるわけではない。ここでは常に取捨選択がつきまとうがゆえに、再吟味の必要に迫られている。日々、様々な立場から不満が噴出し、新しい可能性が探されているのが、健全な状態であるといえよう。

そのような模索の一つとして、学校で哲学を教えるべきか、というものがある。今、これが問われるのには2つの背景がある。1つは、哲学を教える意味の見直し。従来、哲学を教えるとは哲学的知識を獲得させることであったのに対し、哲学的行為を実践させる哲学教育が考えられるようになってきた。世界の意味を吟味させることによって、学ぶものの世界について自ら思考する力を高めることこそが哲学教育であるという考え方である。背景のもう1つは学校教育カリキュラムの見直しである。現代において、学校教育が市民の育成を担おうとするならば、知識と技能の教授を基盤にしたこれまでの学校教育カリキュラムは根本的に再検討され、子どもたち自身の思考を強調したものになることが求められている。これら2つの見直しが結びつくところで、学校で哲学を教えることの役割が問われているのである。

意味が見直されつつある哲学教育は、学校教育における古い哲学教育を変革するだけでなく、現代社会が要求している学校教育カリキュラムの変革に応え、自ら考える市民を育てる役割を果たそうとしている。これを本研究では、“新しい哲学教育”と呼びたい。そして、新しい哲学教育はどのような市民の育成を提案できるのか。学校教育カリキュラム変革の可能性にかかわる挑戦的問いが出現しているといえよう。

しかし、この問いに対して、経験の限界を持った一個人の感覚からのみ答え

るとすれば、新しい哲学教育の可能性を広く検討した、示唆に富む提案が生まれることは期待しにくいだろう。そこで他者のアイデアにヒントを求め、それぞれの経験の蓄積から導き出された多様な新しい哲学教育の考え方を吟味することをもって、この問いに答えたい。本研究では、そのヒントを、新しい哲学教育の可能性が広く議論されてきた国の1つである米国に求め、米国での新しい哲学教育の展開や、実際に米国で開発された新しい哲学教育の教科書やプログラム、プロジェクトといった教育計画に依拠して、新しい哲学教育の可能性を究明する。具体的には、次のような手順と方法をとる。

第1に、新しい哲学教育を広く捉えることのできる理念的な枠組みを作る(第I章)。その教育で何を達成しようとするのか(教育目標)、その教育による目的達成のあり方をどのように規定するか(教育方法)の2つの軸から新しい哲学教育を類型化する。この2つの軸が交差する所に、その教育で何をどのように用意するのか(教育内容)が現れ、新しい哲学教育のカリキュラムを編成する基本的な4つの立場を理解できるようにする。

第2に、事例カリキュラム分析を用いて、理念的に現れた新しい哲学教育の4つの類型それぞれのカリキュラム論を解明する(第II章から第V章)。各類型の事例とみなせる教育計画がどのように構成されているかを分析し、論理的構造を解釈することで、その目標-内容-方法の相互関係を明らかにし、そこから、その新しい哲学教育の特質を考察する。

第3に、4つの新しい哲学教育を、それぞれがどのように市民育成に貢献するのかという観点から、改めて比較、検討し、学校で哲学を教えることの含み持つ市民育成の新しい可能性を究明する(終章)。

第I章 新しい哲学教育の理念的類型

本章では、米国における新しい哲学教育の展開に見られる論点を参考に、多様な新しい哲学教育を捉えるための一つの枠組みを作る。それが次頁の表1である。

米国における新しい哲学教育は、1980年代の批判的思考運動との結びつきによって、その存在を明瞭なものにした。それゆえ新しい哲学教育を立論しようと思うと、民主主義社会を形成する市民としての質の高い思考を育成するとい

表 1：新しい哲学教育の類型(筆者作成)

教育方法 教育目標	合理化 (思考をより合理的に)	自発化 (思考をより自発的に)
本質的思考育成 (哲学的行為目的型)	合理化による本質的思考育成 のための哲学教育	自発化による本質的思考育成 のための哲学教育
	事例：Philosophy for Teens (信念吟味学習としてのカリキュラム編成)	事例：Philosophy for Kids (疑問生成学習としてのカリキュラム編成)
社会的思考育成 (哲学的行為手段型)	合理化による社会的思考育成 のための哲学教育	自発化による社会的思考育成 のための哲学教育
	事例：IAPC 版 Philosophy for Children (思考修正学習としてのカリキュラム編成)	事例：Philosophy for Children in Hawaii (関係形成学習としてのカリキュラム編成)

う目的に、哲学の固有性をどのように位置づけ、それに貢献しようとするか、が目標論上の大きな問題になる。また、新しい哲学教育は、批判的思考研究の蓄積された成果を利用することで、その実体化を図る。それゆえ、新しい哲学教育を立論しようと思うと、批判的思考研究に存在する複雑な思考育成(=人間形成)の論理の何を強調して、哲学的行為を思考育成のための行為にするのか、が方法論上の大きな問題になる。

ここから、新しい哲学教育の目標論として、①民主主義的社会を形成するための思考育成の全体に間接的に関与しようとして、哲学に固有の、日常的に省みられることのない世界の根本的なものごとについて思考すること、それ自体を目標にする(本質的思考育成)、②哲学に固有の要素は、民主主義的社会を形成するための思考育成の全体に直接的に関与してこそ教育的意義をもつと考え、子どもが哲学を活用して社会を形成するように思考することを目標にする(社会的思考育成)、の両論が想定できる。また、新しい哲学教育の方法論として、①哲学的行為において、子どもが日常的におこなっている思考をより妥当で理にかなったものにするプロセスこそ思考育成(=人間形成)であると考え(合理化教育)、②哲学的行為において、これまで切迫して考えなければならなかった、もしくは習慣的に考えるようになっていたこと以外で、思考したいと思うことを作りだす、自発化のプロセスこそ思考育成(=人間形成)であると考え(自発

化教育), の両論を想定できる。これらの2つの目標論と2つの方法論の軸を交差することで、新しい哲学教育の様々な立場を相対的に捉えるための枠組みである4つの類型、合理化による本質的思考育成のための哲学教育、自発化による本質的思考形成のための哲学教育、合理化による社会的思考育成のための哲学教育、自発化による社会的思考育成のための哲学教育、が存在すると考えることができる。

第II章 合理化による本質的思考育成のための哲学教育

本章では、新しい哲学教育の一類型、合理化による本質的思考育成のための哲学教育がどのようなカリキュラム論(目標-内容-方法の関係)を持ち得るのかを明らかにし、それが学校教育に生じさせる変化を問う。そのために、本類型の事例であるとみなすことのできる教育計画として、中等教育用教科書

“Philosophy for teens: Questioning Life’s Big Ideas” を取り上げ、その構成を分析した。結果、そこに見られたカリキュラム論は次のようなものである。

子どもたちに育成すべき良い思考を、自分の生き方について吟味する思考と設定し、そもそもの子どもの思考を、意見を吟味せずに無意識的に選択している思考と設定する。そして、それらを交流させる可能な思考として、用意された問題について多様な意見のウラにある考えを発見し、比べることを準備する。カリキュラムの目的意識は、子どもたちが吟味された人生を生きることであり、子どもたちの思考の結果を問題視している。このようなカリキュラム論から、合理化による本質的思考育成のための哲学教育は、その特質として、本質的な事柄について自覚的に意見を形成させることを可能にする一方で、そのような本質的な事柄への無条件の注目が、子どもたちの日常的な思考との乖離を生み、思考の育成を限定的なものは限定的なものになることが明らかとなった。

第III章 合理化による社会的思考育成のための哲学教育

本章では、新しい哲学教育の一類型、合理化による社会的思考育成のための哲学教育がどのようなカリキュラム論(目標-内容-方法の関係)を持ち得るのかを明らかにし、それが学校教育に生じさせる変化を問う。そのために、本類型の事例であるとみなすことのできる教育計画として、全学年用哲学教育プログ

ラム“IAPC 版 Philosophy for Children”を取り上げ、その構成を分析する。これによって、明らかにされたカリキュラム論は以下のようなものである。

子どもたちに育成すべき望ましい思考を、より良く理性を働かせようとする思考、子どもの思考を、自分の思考の仕方を固め、正解を求めるようになる思考と設定する。そして、それらを交流させる可能な思考として、自分や他人の判断が妥当で理にかなっているかを、正解との対比ではなく、その過程や前提を反省することによって確かめること、を用意するという論理である。実質的な目的意識は、社会をより理性的な議論の場にすることであり、子どもたちの思考の方法を問題視している。そして、このようなカリキュラム論から、合理化による社会的思考育成のための哲学教育は、より良く理性を働かせようとする思考を可能にするが、子どもたちが思考の意欲をもっていることが前提とされていることに限界があるということが解明された。

第IV章 自発化による本質的思考育成のための哲学教育

本章では、新しい哲学教育の一類型、自発化による本質的思考育成のための哲学教育がどのようなカリキュラム論（目標-内容-方法の関係）を持ち得るのかを明らかにし、それが学校教育に生じさせる変化を問う。そのために、本類型の事例であるとみなすことのできる教育計画として、小学校高学年用教科書“Philosophy for Kids : 40 Fun Questions That Help You Wonder… about Everything!”を取り上げ、その構成を分析する。新しい哲学教育の一類型、自発化による本質的思考育成のための哲学教育の事例を分析した結果、そこに見られたカリキュラム論は次のようなものである。

子どもたちに育成すべき良い思考を、概念に自ら問いを立て連続して追求する思考、子どもの思考を、日常、物事の理解や生活様式を変化させることは無い思考として設定する。そして、それらを交流させる可能な思考として、人間の理解の基礎となるような概念を定義しようとして、経験を内省すること、を用意するという論理である。実質的な目的意識は、世界や自分自身の新しい可能性を作り出すことであり、思考の発生を問題視している。このようなカリキュラム論から、自発化による本質的思考育成のための哲学教育は、その特質として、世界や自分自身の可能性を新たに生み出していくことを学習できるよう

にするが、そのようにして育成される思考が私事性の高いものになることが明らかにされた。

第V章 自発化による社会的思考育成のための哲学教育

本章では、新しい哲学教育の一類型、自発化による社会的思考育成のための哲学教育がどのようなカリキュラム論（目標-内容-方法の関係）を持ち得るのかを明らかにし、それが学校教育に生じさせる変化を問う。そのために、本類型の事例であるとみなすことのできる教育計画として、哲学教育プロジェクト“Philosophy for Children in Hawaii”を取り上げ、その構成の分析を行なった。新しい哲学教育の一類型、自発化による社会的思考育成のための哲学教育の事例に見られたカリキュラム論は以下のようなものであった。

子どもたちに育成すべき望ましい思考を、自己と他者を関係づけ相互に変革できる思考、子どもの思考を、判断の指針とするものは、自分自身以外になく、他者を自分の動かせるものではないと排除する思考、と設定する。そして、それらを交流させる可能な思考として、自分の思考によって他者を、他者の思考によって自分を刺激し、自他に共通した問題を生み出すことを準備する。実質的な目的意識は、社会をより協力したいと思えるものにしていくことであり、思考の態度を問題視している。このようなカリキュラム論から、自発化による社会的思考育成のための哲学教育は、その特質として、自分たち自身で相互に変革しあう関係を意識的に作り出すことを学ばせ、それを学校教育の全体に浸透させることで、子どもたちが社会の民主主義を活性化させる学校教育にしようとするが見いだされた。

終章

本研究で、それぞれ特質が解明された4つの新しい哲学教育を市民育成の視点から再整理したのが、次頁の表2である。

合理化による本質的思考育成のための哲学教育は、吟味された人生を生きる市民育成を志向する。人生の問題について多様な意見を考慮した上で、どれを選ぶべきかを考える思考を育成するようにして、この市民育成に貢献しようとする。

表 2：新しい哲学教育における市民育成の可能性(筆者作成)

合理化による本質的思考育成 のための哲学教育	自発化による本質的思考育成 のための哲学教育
吟味された人生を生きる 市民育成	世界や自分自身の新しい可能性を作り出す 市民育成
合理化による社会的思考育成 のための哲学教育	自発化による社会的思考育成 のための哲学教育
社会をより理性的な議論の場にする 市民育成	社会をより協力したいと思えるものにする 市民育成

合理化による社会的思考育成のための哲学教育は社会をより理性的な議論の場にする市民育成を志向する。思考の修正を教育の内容にすることで、より良く理性を働かせようとする思考を可能にし、この市民育成に貢献しようとする。

自発化による本質的思考形成のための哲学教育は世界や自分自身の新しい可能性を作り出す市民育成を志向する。問いを立てることそのものを学習の目標にすることで、世界や自分自身に問いを立て、その不確定さを明らかにすることを学習できるようにして、この市民育成に貢献しようとする。

自発化による社会的思考育成のための哲学教育は社会をより協力したいと思えるものにする市民育成を思考する。共同で問いを立てるプロセスを内面化することで、自分たち自身で相互に変革しあう関係を意識的に作り出すようにし、この市民育成に貢献しようとする。

これらを相互に比較することで、新しい哲学教育は学校教育にどのような市民の育成を提案できるのか、の問いに、以下の2点が指摘できるだろう。

第1に、自発的思考の育成。明らかになった各市民育成の論理のなかで、現行の学校教育カリキュラムで達成が目指されていない、もしくは達成するのが難しいのが、表1右側の世界や自分自身の新しい可能性を作り出す市民育成と、社会をより協力したいと思えるものにする市民育成であろう。現行の学校教育カリキュラムには、これらの市民育成を志向する新しい哲学教育カリキュラム論に見られる内容編成の考え方は含まれていない。問いを立てることは手段として扱われ、社会への関心と期待は、子どもたちの新しい体験や情報によって、

自然に広がっていくと考えられている。もし、世界や自分自身の新しい可能性を作り出し、社会をより協力したいと思えるものにする市民育成を達成しようと思うと、学校教育の方法を合理化教育から自発化教育へと根本的に転換する必要がある。これはしばしば、一般的な教育理論として、抽象的に主張されるが、自発化による新しい哲学教育の論理はこの市民育成の可能性を具体的に示しているものであると言えよう。

第2に、思考による社会の形成。明らかになった各市民育成の志向のなかで、現代社会が求めるものは、表2下側、社会をより理性的な議論の場にする市民育成と、社会をより協力したいと思えるものにする市民育成であろう。社会が、緊張と無関心で埋められようとしていくこの時代に、学校教育は、自発的に思考して社会を民主主義社会へと形成していく市民の育成を求められている。合理化による社会的思考育成のための哲学教育と自発化による社会的思考育成のための哲学教育は、哲学的行為の実践によって“社会を民主主義化する思考”を育成する社会的思考育成を主張していた。これらは現代社会が求める市民の育成を実行する新しい可能性であると考えられるだろう。

IV. 参考文献

(英文)

- (1) Barrow, W. (2010). Dialogic, Participation and the Potential for Philosophy for Children, *Thinking Skills and Creativity*, v5, n2 pp.61-69.
- (2) Bayer, B. K. (1985). Critical Thinking: What is it?, *Social Education*, v49, pp. 270-276.
- (3) Biesta, G. (2011). Philosophy, Exposure, and Children : How to Resist the Instrumentalisation of Philosophy in Education, *Journal of Philosophy of Education*, v45, n2, pp. 305-319.
- (4) Cam, P. (Ed.). (1993). *Thinking Stories 1*, Philosophical Inquiry for Children, Hale & Iremonger.
- (5) Cam, P. (Ed.). (2008a). *Thinking Stories 2*, Philosophical Inquiry for Children, Hale & Iremonger.
- (6) Cam, P. (Ed.). (2008b). *Thinking Stories 3*, Philosophical Inquiry for Children, Hale & Iremonger.
- (7) Chesters, S. D. (2012). *The Socratic Classroom: Reflective Thinking Through Collaborative Inquiry*, Sense Publishers.
- (8) College of Education, University of Hawaii at Manoa. (2012). *Educational Perspectives*(*Journal of the College of Education, University of Hawaii at Manoa*), v44, n1-2.
- (9) Costa, A. L. (Ed.). (1991a). *Developing Minds, A resource book for teaching thinking*(Revised Edition), Volume 1, Association for supervision and curriculum development.
- (10) Costa, A. L. (Ed.). (1991b). *Developing Minds : Programs for Teaching Thinking*(Revised Edition), Volume 2, Association for Supervision and Curriculum Development.
- (11) Costa, A. L. (2003). Introduction: The vision, In A. L. Costa (Ed.) *Developing minds: A resource book for teaching thinking*, Association for Supervision and Curriculum Development, pp.459-465.
- (12) Fisher, R. (1995). *Teaching children to think*, Nelson Thornes.
- (13) Fisher, R. (2009). *CREATIVE DIALOGUE: Talk for thinking in the classroom*, Routledge.
- (14) Green, L. (2009). Education for democracy: Using the classroom community of inquiry to develop habits of reactive judgement in South African schools, *Thinking Skills and Creativity*, v4, n3, pp. 178-184.
- (15) Gregory, M. (2011). Philosophy for Children and Its Critics- A Mendham Dialogue, *Journal of Philosophy of Education*, v45, n2, pp.199-219.
- (16) Gregory, M. (Ed.). (2008). *Philosophy for Children Practitioner Handbook*, Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair state university.
- (17) Gusmano, J. J. (1990). *thinking philosophically*, University Press of America.
- (18) Haynes, F. (2009). *PESA Encounters : From Debate to Dialogue*, Educational Philosophy and Theory, v41, n7, pp. 770-773.
- (19) Haynes, J. (2002). *Children as Philosophers: Learning Through Enquiry and Dialogue in the Primary Classroom*, Routledge.
- (20) Jackson, T. (2001). The Art and Craft of "Gently Socratic" Inquiry, Costa, A. L. (Ed.), *Developing Minds: A Resource Book for Teaching Thinking* (3rd edition), Association for supervision and Curriculum, pp.459-465.
- (21) Jackson, T. (2004). Philosophy for Children Hawaiian Style –On Not Being in a Rush–, *Thinking: The Journal of Philosophy for Children*, v17, n1-2, pp.4-8.

- (22) Jackson, T. (2012). Philosophical Rules of Engagement, Maher, C. (Ed.), *The Pittsburgh School of Philosophy*, Routledge Studies in Contemporary Philosophy pp.99-109.
- (23) Jackson, T. & Hakoda, L. (n.d.). *Getting Started in Philosophy Start-Up Kit for K-1* (2nded.), Unpublished manuscript, University of Hawaii at Manoa.
- (24) Jones, H. (2008). Thoughts on Teaching Thinking : Perceptions of Practitioners with a Shared Culture of Thinking Skills Education, *Curriculum Journal*, v19, n4, pp. 309-324.
- (25) Kasmarek, J. E. (2002). *Philosophy Book 1 Curriculum Unit*, The Center for learning.
- (26) Kasmarek, J. E. (2004). *Philosophy Book 2 Curriculum Unit*, The Center for learning.
- (27) Kaye S. M., & Thomson, P. (2007). *Philosophy for Teens, Questioning Life's Big Ideas*, Prufrock Press Inc.
- (28) Kaye S. M., & Thomson, P. (2008). *More Philosophy for Teens, Examining Reality and Knowledge*, Prufrock Press Inc.
- (29) Kennedy, N., & Kennedy, D. (2011). Community of Philosophical Inquiry as a Discursive Structure, and Its Role in School Curriculum Design, *Journal of Philosophy of Education*, v45, n2, pp.265-283.
- (30) Law, S. (2002). *The Philosophy Files*, Orion Children's Books.
- (31) Leicester, M., & Taylor, D. (2010). *Critical Thinking across the Curriculum Developing critical thinking skills*, Open University Press.
- (32) Leicester, M. (2006a). *Early Years Stories for the Foundation Stage*, Routledge.
- (33) Leicester, M. (2006b). *Stories for Circle Time and Assembly*, Routledge.
- (34) Leicester, M. (2010). *Teaching Critical Thinking Skills*, Continuum.
- (35) Lipman, M. (1978). *SUKI*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (36) Lipman, M. (1980). *Mark*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (37) Lipman, M. (1981). *Pixie*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (38) Lipman, M. (1982). *Harry Stottlemeier's Discovery*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (39) Lipman, M. (1985a). *Getting Our Thoughts Together: Instructional Manual to Accompany Elfie* (Second Edition), The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (40) Lipman, M. (1985b). *LISA*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (41) Lipman, M. (1986). *Kio and Gus*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (42) Lipman, M. (1988). *Philosophy Goes to School*, Temple University Press.
- (43) Lipman, M. (1991). *Thinking in Education*, Cambridge University Press.
- (44) Lipman, M. (1996a). *Deciding What To Do, Instructional Manual to Accompany NOUS*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (45) Lipman, M. (1996b). *NATASHA Vygotskian Dialogues*, Teachers College Press, Columbia University.
- (46) Lipman, M. (1996). *Nous*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (47) Lipman, M. (2005). *Elfie* (2ndEd.), The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (48) Lipman, M. (2006). *Getting Our Thoughts Together, Instructional Manual to Accompany ELFIE* (2ndEd.), Montclair: the Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.

- (49) Lipman, M. (2008). *A Life Teaching Thinking*, Montclair: the Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (50) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1978). *Growing up with philosophy*, Temple University Press
- (51) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1980a). *Social Inquiry, Instructional Manual to Accompany Mark*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (52) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1980b). *Writing: How and Why*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (53) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1984). *Looking for Meaning: Instructional Manual to Accompany Pixie*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (54) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1985). *Ethical inquiry: Instructional Manual to Accompany LISA* (Second Edition), The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (55) Lipman, M., & Sharp, A. M. (1986). *Wondering at The world: Instructional Manual to Accompany Kio and Gus*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (56) Lipman, M., & Sharp, A. M., & Oscanyan, F. S. (1980). *Philosophy in the Classroom* (Second Edition), Temple University Press.
- (57) Lipman, M., & Sharp, A. M., & Oscanyan, F. S. (1984). *Philosophical Inquiry: Instructional Manual to Accompany Harry Stottlemeier's Discovery*, The Institute for the Advancement of Philosophy for Children, Montclair State University.
- (58) Lone, J. M., & Israeloff R. (Ed.). (2012). *Philosophy and Education: Introducing Philosophy to Young People*, Cambridge Scholars Publishing.
- (59) Long, F. (2005). Thomas Reid and Philosophy with Children, *Journal of Philosophy of Education*, v39, n4, p599-614.
- (60) Makaiau, A. S., & Glassco K. (n.d.). *Ethnic Studies and Philosophy: Teacher's Guide, Course Overview, Curriculum Maps, and Daily Objectives*, Unpublished Document.
- (61) Makaiau, A. S. (n.d.). *Philosophy for Children and Ethnic Studies at Kailua High School: A Phenomenological Study*, Unpublished Document.
- (62) Meehan, K. A. (1990). Evaluation of a Philosophy for Children Project In Hawaii, *Thinking : The Journal of Philosophy for Children*, v8, n4, pp.20-23.
- (63) Mohr Lone, J., (2012). Teaching Pre-College Philosophy: The Cultivation of Philosophical Sensitivity, In R. Israeloff and J. Mohr Lone (Eds.). *Philosophy and Education: Introducing Philosophy to Young People*, Cambridge Scholars Publishing, pp.13-21.
- (64) Reznitskaya, A. (2012). Dialogic teaching: Rethinking language use during literature discussions. *The Reading Teacher*, v65, n7, pp. 446-456.
- (65) Rorty, R. (1989). *Contingency, irony, and solidarity*, Cambridge University Press.
- (66) Sharp, A. M., & Reed F. R. (1992). *Studies in philosophy for Children Harry Stottlemeier's Discovery*, Temple University Press.
- (67) Smith, R. (2011). The Play of Socratic Dialogue, *Journal of Philosophy of Education*, v45, n2, pp.221-233.
- (68) Splitter, L. (2011). Identity, Citizenship and Moral Education, *Educational Philosophy and Theory*, v43, n5, pp.484-505.
- (69) UH Uehiro Academy. (n.d.). *Ethnic_Studies_Syllabus*, Unpublished Document.
- (70) UH Uehiro Academy. (n.d.). *Philosophy for Children The Preschool Project*, Unpublished Document.
- (71) UH Uehiro Academy. (n.d.). *Philosophy for Children, a Guide for Teachers*, Unpublished Document.
- (72) UH Uehiro Academy. (n.d.). *Psychology_syllabus*. , Unpublished Document.

- (73)UH Uehiro Academy. (n.d.). *The Start-up Kit Lessons for Young Beginners* (3rd Edition), Unpublished Document.
- (74)UNESCO, Social and Human Sciences Sector. (2007). *PHILOSOPHY A SCHOOL OF FREEDOM*, UNESCO Publishing.
- (75)Vansieleghem, N. (2005). Philosophy for Children as the Wind of Thinking, *Journal of Philosophy of Education*, v39, n1, pp.19-35.
- (76)Vansieleghem, N. (2006). Listening to Dialogue, *Studies, Philosophy and Education*, v25, n1-2, pp.175-190.
- (77)Vansieleghem, N., & Kennedy, D. (2011). What is Philosophy for Children, What is Philosophy with Children - After Matthew Lipman? -, *Journal of Philosophy of Education*, v45, n2, pp.171-182.
- (78)Wegerif, R. (2010). Towards a dialogic theory of how children learn to think, *Thinking Skills and Creativity*, v6, n3, pp.179-190.
- (79)White, D. A.(2001). *Philosophy for Kids : 40 Fun Questions That Help You Wonder... about Everything!*, Prufrock Press.
- (80)White, D. A. (2005). *THE EXAMINED LIFE*, Prufrock Press.

(邦文)

- (1) 浅沼光樹(2002)「哲学のへりくだりーG・B・マシューズの〈子どもの哲学〉についてー」京都大学哲学論叢刊行会『哲学論叢』第29号, pp.68-80
- (2) 安彦忠彦(2006)『教育課程編成論ー学校は何を学ぶところかー』放送大学教育振興会
- (3) 有馬知江美(2008)「哲学教育に関する考察(XII) : 子どもの孤独の時間と自由の探求についてー」『有馬作新学院大学女子短期大学部紀要』第31号, pp.1-12
- (4) 安藤輝次(1993)「『子どものための哲学』における小学1年生の指導」アメリカ教育学会『アメリカ教育学会紀要』第4号, pp.11-19
- (5) 安藤輝次(1994)「M.リップマンの『子どものための哲学』(Ⅱ)ー小学校高学年用教科書を中心にー」『福井大学教育学部紀要 IV(教育育科学)』第47号, pp.1-14
- (6) 安藤輝次, 渡邊一保(1993)「M.リップマンの『子どものための哲学』の検討」『福井大学教育学部紀要 IV(教育育科学)』第45号, pp.19-41
- (7) 池野範男(1993)「社会科は何を指すべきかー社会的世界の拡大ー」『社会科教育』No.377, 明治図書, pp.118-123
- (8) 池野範男(2001)「真理性か正当性か, 市民の基礎形成か市民形成か」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号, pp.37-40
- (9) 池野範男(2008)「社会科の可能性と限界」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第104号, pp.6-16
- (10)池野範男(2011)「社会形成力を育てる(市民)社会科」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』No.1127, pp.6-13
- (11)池野範男ほか(2004)「グリフィンの歴史授業論: 信念を分析・検討する歴史授業論」『現代民主主義社会の市民を育成する歴史授業の開発研究』平成13年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書, pp.55-66
- (12)池吉琢磨, 中山康雄(2007)「思考についての哲学的探求ーギルバート・ライルの観点からー」『大阪大学大学院人間思科考学研究科紀要』第33号, pp.21-38
- (13)伊勢田哲治(2005)『哲学思考トレーニング』ちくま新書
- (14)今谷順重(編著)(1994)『子どもが生きる生活科の授業設計』ミネルヴァ書房
- (15)岩崎武雄(1966)『哲学のすすめ』講談社現代新書
- (16)岩田文昭(1998)「哲学教育と差別問題」大阪教育大学『教育実践研究』第7号, pp.83-92

- (17)上野千鶴子(編)(2001)『構築主義とは何か』勁草書房
- (18)魚津郁夫(2006)『プラグマティズムの思想』筑摩書房
- (19)内田詔夫(2005)「哲学と教育と日常の接点：日常の学習や生活に即して自ら考えさせ人間理解を深めさせるための哲学教育を目指して」『東北哲学会年報』第21号, pp.63-69
- (20)宇野重規(2010)『<私>時代のデモクラシー』岩波書店
- (21)宇野重規(2013)『民主主義のつくり方』筑摩書房
- (22)内海巖(1971)『社会認識教育の理論と実践-社会科教育学原理-』葵書房
- (23)ユーリア・エンゲストローム(山住勝広, 百合草禎二, 庄井良信, 松下佳代, 保坂 裕子, 手取義宏, 高橋登訳)(1999)『拡張による学習—活動理論からのアプローチ』新曜社
- (24)小河原誠(2010)『反証主義』東北大学出版会
- (25)尾原康光(2009)『自由主義社会科教育論』溪水社
- (26)ミシェル・オンフレ(嶋崎正樹訳)(2004)『<反>哲学教科書』NTT出版
- (27)片上宗二(2011)『「社会研究科」による社会科授業の革新—社会科教育の現在, 過去, 未来—』風間書房
- (28)片上宗二(2013)『社会科教師のための「言語力」研究—社会科授業の充実・発展をめざして—』風間書房
- (29)片上宗二, 木村博一, 永田忠道(編著)(2011)『混迷の時代!“社会科”はどこへ向かえばよいのか—激動の歴史から未来を模索する』明治図書
- (30)唐木清志(2009)『アメリカ社会科のシティズンシップ教育に関する理論的・実践的研究』平成18~20年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書
- (31)アンソニー・ギデンズ(秋吉美都・安藤太郎・筒井淳也訳)(1991)『モダニティと自己アイデンティティ—後期近代における自己と社会』ハーベスト社
- (32)木村博一(編著)(2002)『21世紀の初等教育学シリーズ 第2巻 初等社会科教育学』協同出版
- (33)木村博一(1999)「社会科問題解決学習の成立と変質—昭和26年版『小学校学習指導要領社会科編(試案)』の再評価—」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号, pp.11-20
- (34)草原和博(1995)「近年の社会科教育研究が示唆するもの：研究方法論と教科論の関連に注目して」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第43号, pp.100-110
- (35)草原和博(2005)「「社会科地理」をめぐる論争の構図」『鳴門教育大学紀要(教育科学編)』第20号, pp.171-183
- (36)桑原敏典(2000)「自立的な価値観の形成を目指す社会科論争問題学習—「アメリカの社会的論争問題」を事例として—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第12号, pp.93-104
- (37)シャロン・ケイ, ポール・トムソン(河野哲也監訳)(2012)『中学生からの対話する哲学教室』玉川大学出版社
- (38)河野哲也(2014)『「子ども哲学」で対話力と思考力を育てる』河出書房新社
- (39)児玉康弘(2004)「「公民科」における解釈批判学習—「先哲の思想」の扱い—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第16号, pp.73-81
- (40)小原友行(1975)「社会科学学習原理としての探求：B.G.マシャラスの場合」全国社会科教育学会『社会科研究』第24号, pp.73-82
- (41)酒井雅子(2013)「M・リップマンの「子どものための哲学」における探究力—中核教材『ハリー・シュートトゥルマイヤーの発見』と指導書の分析—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』第21号, 第1号, pp.129-130
- (42)澤田千歳, 松本伸示(2009)「「課題設定の能力」の育成を目指した実践研究—「子どものための哲学」の授業を通して」『日本総合学習学会誌』第12号, pp.1-8

- (43)下前弘司ほか(2011)「高等学校社会系教科における 批判的思考力を育成する授業開発の研究(1)ー公民科「倫理」の場合ー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第 39 号, pp.285-290
- (44)社会認識教育学会(1985)『社会科教育の 2 1 世紀』明治図書
- (45)社会認識教育学会(1994)『社会科教育学ハンドブックー新しい視座への基礎知識ー』明治図書
- (46)社会認識教育学会(2012)『新社会科教育学ハンドブック』明治図書
- (47)白井成雄(2006)「フランスの高校(リセ)の哲学教育について」哲学会誌, 第 41 号, pp33-37
- (48)全国社会科教育学会(2001)『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書
- (49)高橋綾(2005)「〈こどもの哲学〉へ向けてーメルロ=ポンティによるピアジェ批判からー」大阪大学大学院文学研究科哲学講座『メタフュシカ』第 36 号, pp.65-78
- (50)高橋綾(2008)「対話における哲学的思考の学習ークリティカルシンキングとエンゲストロームの学習論よりー」大阪大学大学院研究科臨床哲学研究室『臨床哲学』第 9 号, pp.39-59
- (51)Bonnie Tabor, Nannette Ganotisi, 豊田光世(2009)「ワイキキ小学校が実践する P4C(子どもの哲学)による道徳教育」日本道徳教育学会『道徳と教育』第 53 巻, pp.147-149
- (52)田中俊朗, 関根政美(2002)『市民権とは何か』岩波書店
- (53)棚橋健治(2007)「アメリカの市民性形成論(1)ー市民性概念の歴史的・社会的文脈ー」二宮皓(編)『市民性形成論』放送大学教育振興会, pp.82-94.
- (54)土屋陽介(2013)「子どもの哲学における反省的思考とメタ認知: 反省的思考力を伸ばす子どもの哲学カリキュラム作成のための予備的考察」『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書: 子どものための哲学教育研究』pp.69-84
- (55)イヴ・ティエリ(秋葉みなみ訳)(2009)「高校の哲学ーフランスのケースー」園山大祐ほか編『日仏比較 変容する社会と教育』pp.125-135
- (56)ジョン・デューイ(河村望訳)(1916)『民主主義と教育』(デューイ=ミード著作集 9), 人間の科学社
- (57)ジョン・デューウィ(清水幾太郎, 清水禮子訳)(1968)『哲学の改造』岩波書店
- (58)豊田光世(2012)「「子どもの哲学」の教育活動の理念と手法に関する研究ーハワイ州の取り組みを事例としてー」『兵庫県立大学環境人間学部研究報告』第 14 号, pp.41-50。
- (59)中島道男(2009)『バウマン社会理論の射程ーポストモダニティと倫理』青弓社
- (60)永田忠通(2007)「社会科教育学における理論研究の動向ー2006 年度の関係学会誌論文をもとにー」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 101 号, pp.61-69
- (61)仲正昌樹(2008)『集中講義!アメリカ現代思想ーリベラリズムの冒険』日本放送出版協会
- (62)西研(2001)『哲学的思考』筑摩書房
- (63)西野真由美(1997)「オーストラリアにおける子どもたちのための哲学教育ー思考力を育成する道徳教育のためのー考察ー」日本比較教育学会『比較教育学研究』第 2 3 号, pp.65-80
- (64)トマス・ネーゲル(岡本裕一朗, 若松良樹訳)(1993)『哲学ってどんなこと?ーとって短い哲学入門ー』昭和堂
- (65)野家啓一(2012)「哲学リテラシーの必要性」文部科学省『中等教育資料』ぎょうせい, pp.2-3
- (66)野上智行(1996)『「クロスカリキュラム」理論と方法ー総合的学習への提言

- 今日をクロスする授業 第1巻』明治図書
- (67)野矢茂樹(1997)『論理トレーニング』産業図書
- (68)ウォルター・パーカー(藤井千春訳)(2009)『社会科教育カリキュラム☆市民社会を育てるノート☆』ルック社
- (69)ジグムント・バウマン(森田典正訳)(2001)『リキッド・モダニティ 液状化する社会』大月書店
- (70)ジグムント・バウマン(伊藤茂訳)(2007)『アイデンティティ』日本経済評論社
- (71)ジグムント・バウマン(澤井敦,菅野博史,鈴木智之訳)(2008)『個人化社会 ソシオロジー選書1』青弓社
- (72)原宏史(2003)「高等学校倫理において「生」と「死」の授業をどう構想するか」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第6号, pp.197-206
- (73)原宏史(2008)「「倫理」における公害の取り扱い -応用倫理的観点からの「水俣病」の授業実践-」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第11号, pp.229-238
- (74)早川操(1994)『デューイの探求教育哲学—相互成長をめざす人間形成再考—』名古屋大学出版会
- (75)樋口直宏(2012)「日本における批判的思考研究の動向と課題:教育学を中心に」東京教育大学教育方法談話会『教育方法学研究』第17号, pp.199-225
- (76)カレル・ファン・デル・レーウ(樋口聡訳)(2007)「子どものための哲学をめぐる諸問題」広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座『学習開発学研究』第1号, 2007年, pp.19-27
- (77)カレル・ファン・デル・レーウ(樋口聡訳)(2007)「子どものための哲学:歴史・概念・方法」広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座『学習開発学研究』第1号, pp.143-149
- (78)ジェームス・ゴートン・フィンリースン(村岡晋一,木前利秋訳)(2007年)『1冊でわかるハーバーマス』岩波書店
- (79)ベルンハルト・ヘルツル,フリードリヒ・ミュレッカー,ハンス・ウーラッハ(島崎隆監訳)(2002)『哲学の問い 討議用』晃洋書房
- (80)G・B マッシュューズ(鈴木晶訳)(1996)『子どもは小さな哲学者』新思索社
- (81)G・B マッシュューズ(倉光修,梨木香歩訳)(1997)『哲学と子ども 子どもとの対話から』新曜社
- (82)丸山恭司(2007)「言語の呪縛と解放—ウイトゲンシュタインの哲学教育—」教育哲学会『教育哲学研究』第96号, pp.115-131
- (83)水谷浩文,松本伸示(2005)「Reasoning Skillの育成を目指した授業の実践:「子どものための哲学」プログラムを手がかりにして」『日本教科教育学会誌』第28号, 第1巻, pp.31-39
- (84)水谷浩文,松本伸示(2006)「Reasoning Skillの育成を目指した授業の実践Ⅱ:「子どものための哲学」プログラムの焦点的利用を通して」『日本教科教育学会誌』第29号, 第2巻, pp.29-37
- (85)水山光春(2011)『英国市民教育の批判的摂取に基づく小中高一貫シティズンシップ教育カリキュラム開発』2007-2010年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書
- (86)溝口和宏(2001)「開かれた価値観形成をはかる社会科教育」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号, pp.29-36
- (87)道田泰司(2001)「日常的題材に対する大学生の批判的思考-態度と能力の学年差と専攻差-」日本教育心理学会『教育心理学研究』第49号, pp.41-49
- (88)道田泰司(2001)「批判的思考の諸概念:人はそれを何だと考えているか?」『琉球大学教育学部紀要』第59号, pp.109-127
- (89)道田泰司(2011)「原著[実践研究] 授業においてさまざまな質問経験をすることが質問態度と質問力に及ぼす効果」日本教育心理学会『教育心理学研究』第

- 59号, pp.193-205
- (90)村上祐子(2010)「哲学教育の一環としての論理学教育の充実に向けて」日本科学哲学学会『科学哲学』第43号, pp.91-97
- (91)村田正志(2003)「社会的探求としての哲学授業--M.リップマン『子どものための哲学』の場合」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第49号, 第2巻, pp.549-554.
- (92)藤井千春(2010)『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』, 早稲田大学出版部
- (93)森敏昭(2003)「21世紀の学習理論と学習指導:「機械論」を超えて」『学習開発研究』第2号, 広島大学, pp.37-45
- (94)森秀樹(2011)『「市民性教育」としての「子どものための哲学」』平成20年度～平成22年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書
- (95)森分孝治(1992)「対抗イデオロギー教育—科学的知識の批判的学習—」をなぜ問うか『社会科教育』No359, 明治図書, pp.119-124
- (96)森分孝治(1993)「今,社会科とは何か」をなぜ問うか『社会科教育』No375, 明治図書, pp.126-131
- (97)森分孝治(1996)「社会科の本質—市民的資質教育における科学」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第74号, pp.60-70
- (98)ギルバート・ライル著(坂本百大ほか訳)(1997)『思考について』みすず書房
- (99)矢野智司(1996)『ソクラテスのダブル・バインド—意味生成の教育人間学—』世織書房
- (100)吉村功太郎(2001)「社会的合意形成をめざす社会科授業」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号, pp.21-28
- (101)鷺田小彌太(2004)「哲学教育の過去・現在・未来」札幌大学『経済と経営』Vol.35 pp.101-118
- (102)渡部竜也(2008)「社会問題提起力育成をめざした社会科授業の構想: 米国急進派教育論の批判的検討を通して」全国社会科教育学会『社会科研究』第69号, pp. 1-10
- (103)渡部竜也(2009)「自由主義社会は「政治的なもの」の学習を必要としないのか—尾原康光氏の論考の再検討—」日本公民教育学会『公民教育研究』第17号, pp49-63